



新聞記事「読者の欄」から進路を考える

～「進路の意味、見えてきた」～

私は小学4年生から塾に通いだし、大学まで進路を真面目に考えてきたという記憶がない。ただ 難しい高校、難しい大学に行くことが、世間一般の「良い人生」だと思っていた。

大学3年の秋、就職という進路決定の時期がやってきた。どのような職に就きたいか決まっている人がうらやましかった。ただ大学入学後、自分の望んだレベルの大学ではなかったこともあって 自分に不満を抱き、これで良かったのかと考えたことがあった。そして、高校卒業後に就職した友人の話をきっかけに、「良い人生」は、世間が決めるものではないと思うようになっていった。だから、たとえ遅い歩みでも、自分の好きな道を見つけ出したかった。「数撃てば当たる」という気持ちで就職活動するのがあほらしくなって、活動はやめた。

結局、今は司法書士という聞いたこともなかった職業を目指して、専門学校に通っている。阪神大震災でボランティアとして働く司法書士を見て、専門知識を生かして人に尽くす姿に感動したからだ。勉強をはじめて一年半。自分でも不思議なほど、司法書士になりたいという気持ちが強くなっている。

進路を決めるとき私たちは、この道を選んで正しいのかと悩む。後悔しないだろうかと不安になる。だが、世間は狭くない。行き詰ったらその時また、違う道を選択することができるのだ。なかなか、「進路を決める」ということの意味が分からなかった私だが、そんな私を見守ってくれた両親に感謝している。(専門学校生23歳)

世間では、難易度の高い高校・大学に進学し、大手企業に就職することが良い人生という風潮があるように感じます。勝ち組、負け組という言葉がはやった時代もありましたが、そもそも人生に勝ち負けなんてあるのでしょうか？上記の筆者もおそらく、世間一般でいう「良い人生」というレールに乗って、大学まで進学したのでしょう。しかし、就職という人生最大の壁に直面したときに、このままで良いのだろうかと初めて疑問を抱いたようです。このような話は、いろいろな所で耳にします。(耳にしてきました) せっかく大学まで進学したのに、どのような職に就きたいのか希望がない、就職したものの1週間もしない間に退職など。結局のところは、自分自身で考えた進路ではなく、世間(他人)の引いたレールの上に乗っかってただけで、そこには「自分の意志」が存在しないのです。人の性格や特技などが異なるように、人の進路(人生)も千差万別だと私は思います。それでこそ人間の進路(人生)と言えると思います。みなさんは、どのように感じましたか。

3年生はこれから、進路選択に向けた取り組みが進んで行きます。この機会に、ぜひ自分の進路についてじっくりと向き合って考える時間をとって欲しいと思います。

校長 筒井 啓介

■体育大会を開催しました(その5)

中学校生活の大きな行事である体育大会。生徒一人一人が最後まで力を出し切って競技に臨みました。その前向きな姿を見ていると、山手台中生が持つパワー(無限の可能性)を感じました。また、各ブロックとも先輩が後輩をリードする姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。解団式では、ブロックごとに円陣を組んで、みんなの労をねぎらう姿も見られました。



みんな素敵な笑顔です



青ブロック



赤ブロック



緑ブロック



桃ブロック



黄ブロック



みんな素敵な笑顔です